

試験日 : 2026 年 2 月 21 日 (土)

入試種別 : 社会学研究科 社会学専攻 社会学コース

学部・研究科 : 社会学研究科

科目名 : 社会学概論

解答又は解答例

問 1

A 群

- ① 一般的に性別という意味での sex と同義語として用いられる。1960 年代にアメリカで始まった女性学が盛んになる過程で、男女両性の生物学的特徴の違いを意味する sex に対して、文化的・社会的意味づけをされた両性を示す用語としてジェンダーが用いられるようになった。つまり、生物学的特徴によって区別される女性と男性は、彼らが所属する社会が定められた内容の性別特性を身につけるように育てられるので、性格や気質、行動様式などにも、性差が現れるということである。「女らしさ」「男らしさ」という概念は文化・社会的に規定されるので、その内容は社会・時代によって異なる。このことは、性差が性差別につながるメカニズムを明らかにするために不可欠である。
- ② 社会階層：学歴や職業、収入といった社会的資源が不平等に配分されている状況を表す概念である。社会階層は一つの基準で決まるのではなく、経済的要因（所得、資産、生活水準など）、職業的要因（職業の種類や地位、例：専門職・管理職など）、教育的要因（学歴、教育機会）、権力・政治的要因や文化的要因に左右される。
- ③ エスニシティ：エスニック集団への帰属の状態、ないしはエスニックな自己意識の。エスニック集団は、客観的には言語、宗教、歴史的集合体験等の文化的指標による境界をもち、主観的には集団メンバーの所属意識により定義される。ただ、ここでは主観的意識が重要な意味をもち、民族的内実も、所与というよりむしろ選択の結果であることが多い。

B 群

- ① 生活世界の植民地化：ハーバーマスが指摘する現代社会の病理現象。これまでもっぱら私的領域におけるインフォーマルなコミュニケーションを通しての了解や合意に方向づけられていたコンフリクト調整の手続きが、法や貨幣を介して調整を図る成果志向的な官僚制や裁判所のコントロールに委ねられる傾向が強まり、共同生活のコミュニケイティヴな構造が危機にさらされている状況をさす。たとえば、家庭や学校における子どもの権利を守るための運動が保護のための法や規制の過剰をもたらし、逆に家族や学校の機能障害を生むような場合をいう。
- ② 再帰的近代：ギデンズやベックらによって提唱されている概念。ここではギデンズ

に絞ってみていく。ギデンズによると、モダニティの再帰性とはすなわち、社会的な営みが、その営みに関する新たな情報によって絶えず吟味・改善され続けることによって、自らの姿を本質的に変えていくという過程にほかならない。そして、近代において特徴的なのは、そうした再帰性が社会生活全般にわたって高度に組織化・制度化されることで、組織や制度それ自体までもが再帰的改変の対象になってしまう。つまり、再帰性が見境もなく動くことである。

③ 承認をめぐる闘争と政治：

集団やそのなかに生きる個人が自らの文化やアイデンティティの適切な承認を求めて行う主張・運動や、それをめぐって起こる対立や論争・交渉、制度形成のこと。現代社会において、個人や集団としてのアイデンティティの承認は重要な問題である。とりわけ文化的マイノリティとされる人々にとって自己の文化の承認は重要であり、こうした人々の文化的アイデンティティをめぐる論争・交渉が承認の政治と呼ばれることが多い。

C群

- ① 記述統計：所与の統計的データそのものがどういう特徴をもつかを、種々の数量的尺度（たとえば、平均値、最頻値、中央値、度数分布、標準偏差、相関係数など）を用いて要約的に記述する統計のこと。所与の統計的データを母集団の標本とみて、母集団分布に対して推計統計を行う前の段階に位置する。
- ② 多変量解析：多変量解析とは3個以上の変量についての統計的分析手法の総称である。コンピュータの普及にともなって、社会学においても一般的な分析手法となってきたが、量的なデータを扱う重回帰分析・パス解析・分散分析・共分散構造分析・因子分析・クラスター分析・質的なデータを扱う対数線形分析、数量化理論などがよく用いられる。多変量解析の基礎となっているのは、重回帰型の線形モデルである。その意味で、大半の手法は重回帰分析の変形とみなすことができる。
- ③ ライフストーリー：一人称の形式で書かれた記録のこと。個人が自分の生涯の一部もしくは全部を語った、その語りの言雄。個人の主観的意味の理解に重要で、生活史研究では典型的な資料。語りは、語り手と聞き手の相互作用の産物であり、また一つの物語であるとされる。

問2

- ① 受験生が、自分の進学後の研究テーマに関する具体的な説明を行う（10点）
- ② 受験生が、自分の研究テーマに取り組む際、採用する社会学的視点に関する具体的な説明を行う（10点）
- ③ 受験生が、自分の研究テーマに取り組む際、採用する研究方法に関する具体的な説明を行う（10点）
- ④ 受験生が、自分の研究の社会的意義に具体的な説明を行う（10点）